

攝家將軍・親王將軍と頼朝の血筋

高田 友

鎌倉幕府の將軍位は三代實朝にて絶ゆ。その後は攝關家九條道家の嬰兒三寅を四代將軍に迎へ、三寅成長して頼經とぞ名乗りたりける。

然らば、頼經は全く源氏の血筋にあらずといふべしや。否々、眞は頼朝妹の曾孫なりしとは皆々様すでに周知の儀にてあらせられむ。

頼經の正室を竹御所（たけのごしよ）と申す。これすなはち修善寺にて殺害せられたる頼家（頼朝長子）が娘なり。

但、頼經一子にして五代將軍を宣下せられたる頼嗣は側室の所生なれば、頼朝に繋がるにはあらず。とはいへ、頼朝妹のやしゃご（玄孫）にあらずんばあらず。

頼經、頼嗣、いづれも成長するや幕府に對抗せむとの野心を抱きたるに由りて、北條氏は其の處遇に苦しむ所あり、おのがじし執權經時、時頼の命にて、京へ送還せらるるに至る。

四代頼經、五代頼嗣を「攝家將軍」とこそは申しけれ。

其の後を襲ひたるが、親王將軍。後嵯峨天皇第一皇子宗尊（むねたか）親王を招聘して六代將軍にぞ据ゑ奉りける。第一皇子なるに登極するを得たまはざりしは卑母の所生なればなり。すなはち、後深草・龜山兩帝の庶兄にておはします。

宗尊親王の正室に入りたまひけるは近衛宰子（さいし・さいこ／すずこ）。近衛兼經の

娘にておはしますが、其の母・仁子は四代頼經の妹。しからばすなはち然則、宰子の女系を遡れば、頼朝妹の玄孫なり。

宗尊親王の皇子にして、宰子の所生なるが七代將軍惟康（これやす）親王。

惟康親王は宰子の子なれば、頼朝の妹の昆孫（こんそん）あた（やしゃごの子）に該る。

惟康親王には男子數多さばにおはし申しけれど、悉く北條氏の謀る所に據りて、僧籍に入り、後繼の儀はなかりけり。

而して第八代將軍に白羽の矢を立てられたるが後深草天皇皇子・久明（ひさあきら）親王。よくよく系圖を吟味したまへ。この人、惟康親王の從弟にておはします。

かくして、頼朝妹の系統も途絶えにけりと思ひきや、久明親王の迎へたる正室は惟康親王の娘なり。名は知られざるが、「中御所（なかのごしよ）」とぞ今に呼ばれたる。

久明親王と中御所の間に出生したまひしが守邦（もりくに）親王。この人、鎌倉幕府第九代にして最後の將軍なり。幕府滅亡後も罪せらるることなく、落飾したりけりとぞ傳へ

らるる。而して、三箇月後には薨去したまひけりとの由なれば、穩かなる逝世にはあらざりしやの如くに察せらる。

守邦親王の男子はみな僧侶になり、女子の命運はつひに知られずなりぬ。

いづれならむとも、鎌倉幕府の四代以降の將軍は頼朝とは血繋らずと世に言はるれど、最後の將軍守邦親王に到るまで、宗尊と久明を除けば、みながら頼朝の妹の女系子孫なりしとは吃驚措く能はざるの儀にあらずや。

（令和六年十二月二十四日受附）